ゴミ収集混乱は必至

市は何の安全策も講じていない

新規業者7割、問題起こした業者も

ゴミ収集は電気・ガス・水道などと同じ市民生活に直結するライフラインであるため、市は万一に備える措置を講じねばならない。ところが、6月に強行された家庭ゴミの入札では、そのような配慮がないばかりか、問題を起こしたことのある業者も新規参入。これでは、市民生活の混乱は目に見えている。

鎌倉市で前代未聞の“ゴミ騒動”を起こした業者が、柏原の家庭ゴミ収集業務を落札した。同じような問題を起こしたら市はどう責任を取るのか

柏原市は今般、家庭ゴミの収集業務について半世紀にわたり継続してきた委託契約を廃止し、入札制に切り換えた。

公共サービスとしてのゴミ処理のうち、収集運搬業者の受託料だけを価格競争の対象とするのはなぜなのか。公平性・透明性を理由にするなら、一般競争入札ではなく指名入札にしたのはなぜなのか。

さらに、指名業者として参加し相当数を落札した㈱大紀が鎌倉市でトラブルを起こしていた事実も判明。しかし、市は新規業者になって起こるであろうトラブルについて何らセーフティーネットを講じておらず、来年四月のスタートで混乱を招くのは必定だ。

セーフティーネット（安全網）とは、万一の事態に備えて安全や安心を提供するための仕組み。

トラブルなかったのは現行業者の努力ゆえ

ゴミ収集業務についていえば、例えば、事故や故障に備え予備のパッカー車が必要となる。ところが、予備車を入れなさいと契約条項に記しておくとか、予備車を持つのであれば五年リースで市がその負担金を持つとか、そういう指導を一切していない。

隣の羽曳野市では、柏原市と同じく委託契約だが、A業者がパンクしたときはB業者がカバー、B業者がトラブルを起こしたときはC業者が代行する、という約束事がきちんとできている。柏原市には、そういう制度設計がまったくない。それでもこれまでにトラブルがなかったのは、長年の経験を持つ現行業者の努力の結果だ。

今回の入札では、七地区のうち五地区を新規参入業者が落札。〝鎌倉事件〟のケースのように、経験の乏しさからトラブルを招き住民が被害を被る可能性は大きい。

「ゴミの回収誰でもできる」は大間違い

ある土建業者が「ゴミの収集なんか誰でもできる」と放言していたが、とんでもない。

収集の道順をおぼえるだけで三週間はかかるといわれるうえ、真夏も真冬も、悪天候でも休むことのできない毎日の作業。人間なら病気になることもあるが、ゴミ回収を滞れば市民生活に支障をきたす。

さらに今回の競争入札で委託料が引き下げられ、落札した業者はそのままでは採算がとれず、人件費を削るしかなくなる。すでに現実は、適正処理を担保するギリギリのところにあり、非正規雇用や外国人労働者を雇わなければ採算を確保できなくなる恐れもある。これは、他の公共サービスと比較して、はたして正常なことだろうか。

結局、困るのは市民

柏原市の担当者は、業者からの質問に対して誠意ある回答をせず、安易に構えている。ある意味、これまで五十年間、大したトラブルもなく継続してきたから、とたかをくくっているのかもしれない。しかし、それは委託業者が、長い経験のなかで相当な努力をして業務をこなしてきたからである。勘違いもはなはだしい。

安全かつ良質な公共サービスが適正かつ確実に行なわれないということになれば、不衛生な、汚らしい街となり、結局は市民が困るのである。「ゴミの積み残しがある」「時間どおりにゴミが収集されない」「カラスの食い荒らしをどうにかして」など、混乱が起きるのは目に見えている。

問題が起きたときの受け皿をどうするのか。市民生活に甚大な影響をもたらしてからでは遅いのだ。

入札に関する質問と市の回答

5月25日、柏原市は現行委託業者にファクス1枚を送り、翌26日に説明会を実施すると通知。その場で6月10日に入札を実施すると発表、あまりの性急さに驚く現行委託業者に対し「文書での質問のみ受け付ける。締め切りは6月2日正午」と通告した。以下は、その質問と市の回答の一部。

「指名入札の新規参入3社（そのうち2社は同族会社であり岡本市長の後援者）の指名の基準は何か」。市の回答「業者を特定できる基準事項が含まれるため、お答えできません」

指名入札の基準も市は明らかにせず

「このような新規参入業者に有利な入札制導入は、現行委託業者から仕事を奪うことになり、従業員の解雇も余儀なくされる。業者の事前の承諾や補償が必要ではないか」。市の回答「事前承諾が必要とは考えておりません」「補償は考えておりません」

「最低落札価格はどのようにの算定したのか」。市の回答「お答えできません」

市は、入札制にする理由を「経済性、競争性、透明性」「安定的な収集」としているが、以上のように回答は著しく不透明で誠意に欠けている。また右の記事の通り安定的な回収への配慮も怠っている。

はまうら佳子の元気が出るコラム

私は、テレビドラマ『水戸黄門』が大好きです。助さん、格さんらを従えて、黄門様が諸国漫遊の旅先で世直しをする話です。ワンパターンと思いつつも見てしまいます。

悪人一味を成敗するクライマックスのシーンで、助さんまたは格さんが葵の御紋の印籠を掲げ「静まれい！この紋所が目に入らぬか！」と一喝。目の前の老人が「前の副将軍・水戸光圀公」であることを知り、悪人一味はびっくり仰天して土下座、平伏。

ここで気持ちがスカッとするのは私だけではないでしょう。だから、40年以上も続く超長寿番組となっているんですね。

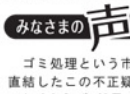
自分たちの欲得のために権力を使って従わせようとする悪代官や悪徳商人は、何も江戸時代だけにいるのではありません。

このたびの入札問題で、そのことが身にしみて分かりました。目ざわりな者には権力をつかってあらゆるいやがらせをし、仕事も平気で奪う。一方、自分と利害が一致する者には甘い汁を吸わせる。どこかの市長さんもその一人。

おおよそ、世の大人たちは「ウソをつくな、弱い者いじめをするな」といって子を育てますが、子供たちは大人の現実を知っています。学校で先生をこう皮肉るそうです。「先生、大人になったらウソもいじめもいいの？」と。

パトロール

本紙への投書や激励の電話が号を重ねるごとに増えている。最近も中年婦人と思われる方からこんな電話をいただいた。自民党の若手女性市議、Y議員が昨年の市議会選の出陣式でこんな発言をしたというのである▼「わたしは岡本市長とは特別の関係です」。その人は思わず耳を疑ったそうだが、当然だろう。若い女性の発言としては誤解を招きかねない▼「いったい何を考えてるんだろうと、そのときは思ったんですが、今回の柏原市のゴミ入札に関する記事を読んで腑に落ちました」。委託契約から入札制への切り換えの端緒なったのは、平成十七年十二月の定例会でのY議員の「現行委託業務を入札にするべき」という発言であるし、合わせて五割近くを落札した大紀と近畿クリーンは彼女の親族が経営している▼出陣式で本当にこの発言があったのかどうかは確認できないが、Y議員と岡本市長の〝特別な関係〟は議会を傍聴していると「なるほど」とうなずけるのは事実だ。



岡本市長を取り巻く利権構造や今回相当数の地域を落札した㈱大紀が、鎌倉市で起こした前代未聞の事件――。このたびの家庭ゴミ入札問題では、次々と問題点が明らかになっています。

みなさまの声募集中

ゴミ処理という市民生活に直結したこの不正疑惑を放っておくならば、結局は私たち市民が困ることになります。どうぞみなさまのご意見をお寄せください。

info@change-kashiwara.com
〒582-0026 柏原市旭ヶ丘2丁目4番25号
電話 072-977-5502　FAX 072-977-8782